

まえがき

平成 23(2011)年の東日本大震災は筑波大学に大きな被害をもたらし、図書館の一部は長期にわたり閉館を余儀なくされ、つくば市内も間もなく回復したとはいえ断水、停電やガソリンの欠乏による行動の制限を受け、1 年たってもブルーシートがかけられたままの家屋が見られました。それでも今日ではほとんど復旧したということができ、傷跡は見つけることが困難なほどになっています。

復旧という言葉で言い表せるならば、つくばはすでに達成されているのですが、私たちが平成 19(2007)年に学部、大学院の民俗学実習でお世話になった石巻市牡鹿地区表浜では津波により甚大な被害を受け、復興への取り組みが続けられています。本報告書は有形・無形の民俗文化財には、復興に寄与できる役割があると考え、資料の保管・清掃・修理の必要性の確認調査から始め、金石文、古文書、共有物の現状を調査した成果です。現地で多くの方々にお話をうかがい作業を進めるうちに多くの経験を積み重ね、徐々に課題が明らかになっていき、民俗学の今までの蓄積に立って何ができるのか、自問することを繰り返してきました。

牡鹿地区でご協力いただいた多くの方々に心からお礼を申し上げます。筑波大学社会貢献プロジェクトによる経済的援助により、現地調査と本報告書の刊行ができました。それに感謝するとともに、これまでに多くの課題が見いだされているので、これらについて今後も長期にわたり取り組んでいきたいと思えます。

2015 年 1 月 15 日

筑波大学教授 古家信平